

ビジネスモデルとなるような農家に

まつだ ひろゆき
松田 洋幸さん (44歳、町内で有機野菜を栽培)

名古屋市在住の松田洋幸さんは、2年程前に東郷町で有機野菜の栽培を始めました。松田さんが育てた野菜は町内の保育園や学校の給食にも使われています。今回は、松田さんが有機栽培を始めたきっかけや、その魅力についてお話を伺いました。



保育園での交流給食

「ビジネスとしての農業を目指す」

松田さんは元々家庭菜園をしていて、作物を育てる面白さを感じられたそうです。また、農業はビジネスとしてチャンスが大きいのと考え、興味を持つようになりました。他のビジネスがニーズに応えるサービスを提供しているのと同じように、ビジネスとして農業をやろうと目指します。

まず、稼ぐためには農業の勉強をする必要があると思い、研修が受けられる農家や農業関係の大きな企業を探しました。見学をする中で、防護服を着て農業をたくさん撒いているのを目の当たりにし、「害が少ないうちでも、自分が食べるものなら農業を使っていないものがない」と感じ、有機栽培を目指すようになりました。三重県に大規模な有機栽培を行っている農家があると知り、そこで1年の研修を受けて農業の有機栽培について学びました。

「東郷町で就農」

研修後の就農先を市町村で探す中で、相談に前向きに応じてくれた東郷町に就農することを決めました。

東郷町に初めて来る松田さん。「有限会社 東郷農産でアルバイトをしながら就農の準備をしました。農業法人でアルバイトをしたことで、地域の農家などと繋がりが持つことができました」と話します。

「ニーズに応えられる農家に」

週5日程、名古屋から東郷町へ通い、畑やハウスで作業をしています。周年栽培できるように、ハウスではコマツナ、ホウレンソウなどの葉菜類、露地ではズッキーニ、ニンジン、ピーマンなどの果菜類を栽培しています。「休みもほしいので、いかに手を放して栽培できるのか考えています」と松田さん。

普段からリストに備えており、これまで農業をやっている大変だと思っただけではないのですが、「収穫できるようになったニンジンが腐っていたときは、悲しかったですね」と振り返ります。

収穫した野菜はスーパーや宅配業者など様々なところに出荷します。コマツナやニンジンは町内の保育園

や学校の給食にも使われています。「収穫できる量や時期など、お客さんと事前にしっかり話し合いをし、ニーズに応えられるようにしています」。

「畑を広げ、次のステップへ」

これからやりたいことを尋ねると「現在は安定して収穫できるようになりました。畑を広げて今よりも多くの野菜を栽培する予定です。また、今育てていない作物などを栽培していきたいです」と意気込みます。

「農家のモデルになりたい」

「小学校の交流給食で、児童から『農業って儲かるの?』と聞かれたときは驚きました。農業に興味を持ってもらうきっかけとなれて嬉しく、印象に残っています」とこぼす。「農家はきちんと計画を立てれば稼ぐことができます。またスタイリッシュでいることで、農家になるハードルを下げるようなモデルになりたいです」と話します。

農業に新しい風を吹かせる松田さんのこれからに注目です。